

日本の8地域における早産率、超早産率の比較

島野敏司 1、4)、長 和俊 2)、山田 俊 3) 齋藤 豪 4)、千石 一雄 5)

- 1) 町立中標津病院 産婦人科
- 2) 北海道大学病院 産科・周産母子センター
- 3) 独立行政法人地域医療機能推進機構北海道病院 産婦人科
- 4) 札幌医科大学 産婦人科
- 5) 旭川医科大学 産婦人科

【目的】北海道地方で早産予防の観点から、妊婦全例の細菌性膣症スクリーニング・治療の浸透度を調査してきた。それによると2004年度57.1%(32/56)から2012年度67.1%(47/70)へと上昇し、この方策が浸透していると考えた。同時に北海道を含む8地方と全国の早産率がどの程度かに興味を抱くようになり、今回、調査したので報告する。

【方法】2007～2015年の9年間の日本の週数別総分娩数(単胎+双胎)を厚労省のオーダーメイド集計により入手した。8地方と全国平均の早産率(22w～<37w/総分娩)と超早産率(22w～<28w/総分娩)を算出し、総あたりで反復測定による一般線型モデル(任意の対比較のP値はTukeyの多重比較法)を用い比較検討した。【成績】全体の早産率は5.72%(54.0/944.8万人)、で、超早産率は0.256%(2.42/944.8万人)であった。北海道は全国平均に比べ、早産率(6.33%)が有意に高く($P<0.001$)、超早産率(0.256%)は全国平均($P=1.000$)であった。

東北は早産率(5.71%)が全国平均($P=1.000$)であったが、超早産率(0.305%)は有意に高く($P<0.0003$)、九州は早産率(5.94%)、超早産率(0.306%)ともに全国平均より有意に高かった($P=0.0041$ 、 0.0002)。【結論】北海道では超早産率が全国平均であったが、早産率が全国平均に比べ有意に高いのは、何らかの早産を増やす因子の関与を推察する一方、東北、九州地方では超早産数減少の可能性があると示唆された。(678文字)